

第14回わくわくコンサート

— みんなで楽しむ音楽鑑賞会 —

代表者 池田 幹 莉 杏 (教育学部 教育教員養成課程
小学校コース 保健体育科領域 4年)

1. 目的と概要

本事業は、小さなお子様や特別な支援を必要とする方など、普段コンサートに参加することが難しい方も含め、誰もが気軽にホールで音楽に触れて楽しんでいただける機会を創出すること目的とした活動です。同時に演奏だけでなく、その年のテーマに沿ったイベントを行い、文化や芸術にふれていただく機会となること、それを通して市民の方々の交流・共生の場とすることも目指しています。また、平成19年からスタートし今回で14回目を迎える本コンサートでは、香川大学の学生を中心に活動し、先生方や大学職員、卒業生、演奏者、複数の企業、団体等のご協力を得て、毎回無料でのコンサートを実現してきました。これまでに多くの市民の方々にご来場いただき、好評を得てきた「わくわくコンサート」を改善し、継続的に実施することも目的としています。

◆活動概要（日程等）

- 2月 新実行委員会本部立ち上げ
プログラム・イベント等検討・助成金申請
- 7月 実行委員決定
1回全体実行委員会
各第種配布物等準備・当日ボランティア募集
- 10月 当日ボランティアの募集締め切り
チラシ入稿
プログラムなどの配布物の作成
後援・共催等確定 曲目・演奏者最終決定
- 12月 ホール打ち合わせ チラシ・ポスター完成
- 1月 本部会議
- 2月 第2回全体実行委員会（メール審議）
わくわくコンサート本番 反省会
報告会参加
- 3月 報告書等作成



◆プログラム（指揮：小森康弘 オーケストラ：Wakuwaku 室内管弦楽団）

1. バッハ：管弦楽組曲 第3番 より 「アリア」（G線上のアリア）
2. フンパーディング：オペラ《ヘンゼルとグレーテル》より
（ヘンゼル：服部慎子，グレーテル：伊藤菜月，ペーター（父）：橋本壮平
ゲルトルート（母）・魔女：藤元恭子，ナレーション：大山未々子）
3. メンデルスゾーン：バイオリン協奏曲 ホ短調
（ソリスト：杉山和駿）



◆イベント

新型コロナウイルス感染症蔓延予防のため、ロビーでのドイツ展示、ヘンゼルとグレーテル原画展を実施

◆主催：第14回わくわくコンサート実行委員会

令和二年度（公財）明治百年記念香川県青少年基金

共催：（公財）高松市文化芸術財団

後援：ドイツ連邦共和国総領事館

香川県 香川県教育委員会

高松市 高松市教育委員会

協賛：（公財）南海育英会 松楠会（香川大学教育学部同窓会）

協力：ドイツ観光局 香川大学 EU 情報センター（香川大学）

幸楠会（香川大学教育学部後援会）（株）レアスウィート 美巧社

2. 実施期間（実施日）

令和3年2月7日（日） 13：00～16：00 （開場 12：20）

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このコンサートは上記の日程で実施しました。入場者の人数や連絡先を把握しておく必要性から、今回初めて、入場者を応募制としました。1月5日から開始した申し込みは10日足らずで500名（定員の50%で募集）の定員に達してしまい、予定人数より多くなることが予想されたため、会場の使用法を変更し3階席までフルオープンにしてソーシャルディスタンスを十分に確保した対応を行うことにしました。本コンサートの人気を窺うことができました。定員50%、700名の入場者で準備を進めましたが、キャンセル待ち希望の電話も相当数あり、対応に追われました。当日は600人ほどのお客様にご来場いただ

きました。

先が読めない状況であったため、HP に初めて予告を掲載しました。チラシは作成後に変更が生じる恐れがあるため、当初予定より遅い完成となりましたが、配布を行いました。コロナ禍の中でも皆さんの「音楽を聴きたい」という気持ちが表れたのではないかと考えています。

今回は「ドイツ」をテーマとし、テーマ国をドイツ、テーマアルファベットをGに設定しました。このテーマに沿って、ドイツ出身の作曲家の作品からGに関連する3曲を選びプログラムを構成しました。

コンサートでは、1曲目にバッハ作曲「管弦楽組曲第3番よりアリア(G線上のアリア)」、2曲目にフンパーディング作曲「ヘンゼルとグレーテル (Hänsel und Gretel)」、3曲目にメンデルスゾーン作曲「バイオリン (Geige) 協奏曲」を演奏しました。特に小さいお客様から好評を頂いたのが、2番目に演奏した「ヘンゼルとグレーテル (Hänsel und Gretel)」です。わくわくコンサートにおける初の試みとして、オペラ作品を取り扱い、気軽に楽しめる「語り劇」という形で上演しました。ナレーション原稿の自作、学生が作成したスライド上映、座ったままで一緒に踊れる「魔女のダンス」など、様々な工夫を盛り込みました。お客様からのアンケートでは「魔女のダンスが楽しかったです」「ヘンゼルとグレーテルがよかった」などの感想もいただき、初の試みを成功させることができたと考えています。また、3曲目のメンデルスゾーン作曲「バイオリン協奏曲」の演奏も大好評でした。バイオリン独奏には、数々のコンクールでの受賞経験を持つ、杉山和駿さん（東京藝術大学4年生）をお迎えし、すばらしい演奏をご披露くださいました。バイオリン協奏曲の中でも特に人気の高いこの曲の演奏は、ご来場のお客様に大変満足いただけたようです。

例年行っていたロビーイベントについては、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、やむなく中止としました。しかしながら、少しでもコンサートの雰囲気を楽しんでいただけるようにと考え、「ヘンゼルとグレーテル」で映写したイラストの原画やドイツ観光局から借りたバーナーを立ち止まらずに見られるよう掲示しました。



今回のプロジェクト最大の成果は、新型コロナウイルス感染症対策に考えられる万全の留意をし、無事にコンサートを開催できたことと考えています。感染拡大により先の見通せない状況となった時期もありましたが、ホールの方とも相談しながら、コンサートに関わる全員の安全を確保できるような対策を様々に検討し準備を進めました。コンサート当日にも参加するボランティア学生へ運営の注意点を全体周知したことで、例年とは異なる点が多いコンサート運営となりながらも、大きなトラブルなくお客様を案内することができました。不測の事態に対応しながらコンサートを開催できたという成果や、培ったノウハウは来年度以降のコンサート運営につながっていくものと考えています。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

まず、本事業を行い「誰もが気軽にホールで音楽に触れて楽しんでもいただける機会」「文化や芸術にふれていただく機会」を提供できたことで、地域社会に貢献することができたと考えます。申込が多かったことから、コロナ禍の中、文化に触れたいという気持ちが強く感じられました。このコンサートの浸透も感じました。幅広い世代のお客様にご来場いただき、多くのお客さまに「楽しかった」「また来たい」との回答をいただきました。また「これからも頑張ってください」などのお声もいただいたことから、様々な方に楽しんでもいただけるようなコンサートを実現できたと考えています。

広報活動については、2局のラジオ番組への出演や本事業の紹介動画を作成して香川大学の YOUTUBE チャンネルに載せるなどの活動を行いました。本コンサートの開催を広く市民の皆様にご存知いただくきっかけとなったほか、香川大学生が主体の活動として良いアピールになったのではないかと考えています。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回のプロジェクトは新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の事態の中、先の見通せない状況のなかで準備を進めていかなければなりません。開催自体が危ぶまれる状況でしたが、コンサートを継続させたいという思いを胸に、様々な考えながらコンサートの開催を実現できたことは私たちの学生生活において大きな自信となりました。また、新型コロナウイルスの影響で学生生活における様々な行事や活動が中止、縮小となっていたため、そのような意味でも本事業の実施は貴重な経験となったといえます。

終了後に行ったアンケートでは、回答した全ての実行委員・学生が「このイベントの意義を感じた」と回答しました。

本事業を通して、特に2つ考えさせられたことがあります。

1点目は、状況に応じて柔軟に対応することの大切さです。今回は感染予防の観点から、例年通りの形ではコンサート開催ができず、様々な点を検討し変更・追加する必要性がありました。コンサートの構成、客席の使い方、参加申し込みの受付方法、来場者の連絡先確保、入退場の方法、できることが限られるなかでもお客様に楽しんでもいただく方法など、考える点は多岐に及び頭を悩まされました。しかしながら、ひとつひとつ丁寧に検討したことで、コンサートの開催を成し遂げることができました。状況の変化に応じて柔軟に対応していくことは、今まさに社会で必要とされている力であるので、今回の経験は今後の糧になるものであると考えています。

2点目は、報連相や情報共有の大切さです。今回は様々な変更に伴い、運営に参加する学生に今まで引き継いできた仕事とは異なる仕事をお願いしなければなりません。しかし、集まったの会議は難しい状況だったため、文書を作成してお知らせを行い、SNSを用いて連絡を取るなど可能な形で情報共有を図りました。当日には開場前に仕事内容の全体周知を行い、それぞれの役割や注意点を確認しました。その結果、全員がスムーズにお客様対応を行うことができました。本部においても、オンラインによる会議の開催など

により意思疎通を図ったことで、計画を進めていくことができました。また、学生同士だけでなく、先生方や演奏者の方々、協賛・協力いただいた企業や団体など、活動を支援して下さる方々への報告や連絡も本事業を通して経験しました。これらの能力もまた、社会人として基礎となる力のひとつであり、将来に繋がる経験ができたのではないかと考えています。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本年度は新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の状況の中でのコンサート開催となりました。例年通りとはいかずとも、なんとか開催できる形を模索し実施できたことは、今回の大きな成果であるといえます。アンケートには「コロナで大変な中コンサートを開いてくれてありがとう」などのお声を多数いただきました。様々な我慢を強いられるなかで、このコンサートが地域の方々にとって憩いのひとときとなったことが窺え、コロナ禍に本事業を実施したことの意義を感じています。

今回、コロナ禍でのプロジェクト実施を行ったことでの反省点がいくつか出てきました。いちばんの反省点は、来場者の制限・把握の目的で行ったQRコードによる申し込み制度です。この方法はQRコードの利用に親しみがない方にとって、コンサート参加への障害となってしまったようでした。電話にてご連絡をくださる方もいましたが、コンサートへの参加を諦めてしまった方もいらっしゃるかもしれません。「誰もが」参加できるコンサートを目指している以上、申し込み方法についても熟慮する必要性がありました。来年度以降もこの状況が続くことは考えられるため、今回の反省点を検討し改善していきたいと思います。

次回、「第15回わくわくコンサート」は令和4年2月6日（日）開催の予定です。もうすでに、メンバーの募集や申請書の作成、プログラムの検討などの動きも始めています。来年も実行委員を中心にたくさんの学生や地域の方々に関わっていただきながら、誰もが楽しめるコンサートをつくりあげていきたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者：池田幹莉杏（教育学部4年）

構成員：吉田陸斗（教育学部4年） 三木祐香（教育学部3年）
山科春乃（教育学部3年） 秦直樹（教育学研究科2年生）
氏原小雪（教育学部2年） 川崎天水（教育学部2年）
坂本実優（教育学部2年） 亀井美波（教育学部3年）
先田圭吾（教育学部3年） 金谷侑紀（教育学部2年）
炭山あい（教育学部3年） 藤井香帆（教育学部2年）
石野秀幸（教育学部4年） 大治蘭菜（教育学部3年）
吉岡利矩（教育学部3年） 森川純一（教育学部2年）
眞部友輔（教育学部2年） 岡本知子（教育学部2年）
早川竜生（教育学部2年） 高橋未咲（教育学部3年）

藤田璃緒（教育学部 3 年） 畠山結衣（教育学部 2 年）
 福森蒼音（創造工学部 1 年） 福田都萌（創造工学部 1 年）
 川崎葉月（創造工学部 1 年） 古川裕心（農学部 1 年）
 川野いづみ（教育学部 4 年） 雄鹿映美（教育学部 3 年）
 木内のはら（教育学部 4 年） 山崎詩（教育学部 3 年）
 赤澤総太郎（教育学部 3 年） 角川幸翼（教育学部 2 年）
 奥田拓海（農学部 1 年） 佐藤瀬愛（農学部 1 年） 秋山結香（農学部 1 年）
 源真歩（経済学部 1 年） 岡嵯冬弥（医学部 1 年） 萩尾優花（法学部 3 年）
 青山夕夏（香川大学教員）

8. 執行経費内訳書

区分	事項(品名等)	規格	数量	単位	単価 (円)	金額(円)	備考
物品	両面印刷	A4	37000	枚	3.24	119,880	見積書あり
物品	両面印刷	A4	1100	枚	44.28	48,708	見積書あり
役務	仕分け梱包料		1	式		31,412	見積書あり
合計						200,000	